

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	福岡県糸島市志登567-1		
自己評価作成日	平成27年5月18日	評価結果確定日	平成27年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成27年6月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

利用者様・ご家族と信頼関係を構築しながら、お一人おひとりの力に応じて役割を持って頂き、利用者様と共にベランダ菜園を行ったり、食事の準備をしたりと回想法を用いて現役時代に振り返って頂き、生きがいをもち安定した生活を過ごして頂けるように日々取り組んでいます。又、職員が全ての利用者様と関わりを持つことで、一人ひとりの状況を把握している。ご家族との連絡も日頃より密に行い、状況の変化に応じ主治医に相談の上、迅速に対応し支援させて頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする「グループホームめぐみ」は老健、ケアプランセンターと同一敷地内に位置する2ユニット型グループホームである。糸島の広大な自然に囲まれ、木の温かみの感じられる平屋建ての建物で、菜園では季節折々の野菜や果物を入居者と一緒にお世話し、収穫を楽しまれている。能力や経験を生かして、できる事には積極的に取り組み、アイロンがけ、餃子づくりをしたり、レクをきっかけに習字などの新たな趣味を見つける方もいるという。ユニットごとに職員も固定せず、全職員で入居者に関わることで、緊急時対応や家族対応などスムーズにできるようになった。長く勤める職員も多く、よく連携も取られている。毎年夏に開かれる紫陽花祭りは老健と合同で行い、入居者と一緒踊りを披露したり、ボランティア協力も多く、恒例の一大イベントになっている。今後も地域とともに発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関と職員室に掲示し、毎朝唱和し共有している。毎月、めぐみ目標を設けて実践につながる様に努力している。	毎朝、申し送りの前に、当日勤務のスタッフ全員で理念を唱和し、実践に繋いでいくケアに取り組んでいる。	以前から朝礼時の唱和を全員で行っており、理念はお便りにも載せられている。昨年からは理念をもとにした月目標を定めるようになり、担当者が会議でも取り上げ、具体的に取り組み、職員一人一人の反省、振り返りも行っている。接遇目標から理念目標に変わること意識も深まってきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老健との合同行事のお祭りや、近所の保育園児の慰問、校区の文化祭に作品を出展する等、地域の方々と交流している。	地域の文化祭に作品出展を行い、見学に出かけたりしている。又、定期的な保育園児の慰問を受けたりと、地域との交流を図っている。	老健と合同の紫陽花祭りは地域にも開放し、地元のギャラリーを借りた展示会、花火大会も本格的に開かれている。校区の文化祭の出展も通じて地域の顔なじみに会うこともあった。祭りには地域ボランティア、地元大学、地域商店の協力もあり、毎年盛況である。同日には事業所見学会も行い、広報にも生かされている。	地域への認知症啓蒙活動として、事業所連絡会と協力した情報発信や、認知症サポーター、キャラバンメイト活動などへの取り組みを検討されてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回、「めぐみホーム便り」を地域に配布し、グループホームの様子を伝えている。今年は校区の依頼で、高齢者介護の講座に職員が協力した。	校区の公民館で、「高齢者現代セミナー」の講師として参加をした。定期的に「めぐみホーム便り」を地域に配布している。又、地域の文化祭時にパンフレットを設置させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回行っている。家族会や敬老会、避難訓練、保育園児の交流会等に参加して頂いている。そこでの意見は会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を行い、年度の事故報告や避難訓練等の行事にも参加していただき、サービスの向上に活かしている。	地域包括、区長、ボランティア、家族などが参加し、毎回何らかの行事と一緒に開催し、家族会、敬老会、避難訓練など同日で行い、日頃の取り組みも見てもらっている。入居者に声掛けして参加してもらったこともあった。開催日は年間行事予定として家族にも伝え、議事録は玄関先に閲覧用のものを設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護保険課の担当者に、運営推進会議の参加を依頼している。わからないことなどあれば、相談をするようにしている。	重要案件がある場合は相談したり、運営推進会議の委員にもなっていたい。	市の担当課に運営推進会議も案内し、年に1回程度は参加されている。今年は指定更新の時期でもあり相談しながら対応した。介護更新時も窓口を訪問し、報告ごとなど一緒にしている。2、3年前から市のゆるキャラ「いとゴン」の派遣を依頼している。紫陽花祭りに来てもらっている。	運営推進会議の議事報告を市の担当に行ったり、毎年4回発行の「めぐみホームだより」を持参することで、関わる機会を増やしてみようだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全の為、又、ご家族の希望もあり玄関は施錠している。毎年、身体拘束の勉強会を行っている。	隣接している老健と合同の勉強会やホーム内での勉強会を実施、理解している。但し、環境的に河川があり交通量が多い為、ご家族の希望でもあり玄関の施錠を行っている。	玄関はスタッフによるオートロック管理だが、ホールからテラスには自由に出られる。要望があるときには職員も一緒に見守り、付き添いで対応している。法人や事業所単体での勉強会も毎年行っている。身体拘束は原則しない方針でスピーチロックなどにも気を付け、言葉かけなどにも注意、配慮している。	

H27自己・外部評価表 (GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎年、必ず勉強会に取り入れ虐待防止に努めている。	隣接している老健との合同勉強会やグループホーム内での勉強会を実施。マニュアルも作成して全職員が理解している為、虐待は無い。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、必ず勉強会に取り入れ理解を深めている。制度を利用されている方はいない。	グループホーム内での勉強会を実施。入居時ご家族の方にも説明を行っているが、現在活用されている方はいない。	これまでも制度利用された事例はなく、今のところ利用検討もないが、毎年の勉強会によって一般的な理解を進めている。契約時には全員に制度説明の資料を渡ししており、対応が必要な際には管理者が中心となって関係機関と協力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に話し合いを行い不安や疑問点を尋ね、理解していただくようにしている。改定時には、事前に家族会で説明を行い、同意書を作成し了承を得た。	入居時は、必ず十分な説明を行っている。又、改定時は家族会で説明を行い、参加されなかった家族にも書面で説明を行い、同意書もいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族アンケートを行い、その結果を職員で話し合い、家族会・運営推進会議で報告している。	利用者様には、ケアプラン立案時要望等をお聞きしている。ご家族には、面会時に要望等をお聞きし、又、年一回家族アンケートでも、要望等を頂戴している。その後、家族会や運営推進会議で報告・検討を行っている。	家族会を、敬老会と年度末の際に合わせて行い、年間報告や予定などを伝えている。以前は年3回していたが、2回に変更したことで内容も濃くなって喜ばれている。多いときは12名程度参加され、家族アンケートも収集し報告も行っている。要望から居室の様式を変更したり、職員の配置が見やすくなるように改善も行った。毎月の「めぐみ便り」を使って写真付きで担当から報告も行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員個々に2年に1回面談を、又、定期的に会議を行いそれぞれの意見を、ホームの運営に反映させるよう努めている。	代表者は、職員個々に2年に1回面談を、又、定期的に会議を行い、それぞれの意見をグループホームの運営に反映させるよう努めている。	3か月に1回、めぐみ会議が開かれ、カンファレンスも同時に行っている。日々の情報は申し送り朝礼などで随時共有し、意見も積極的に出され反映もされている。職員の発案からバザーの収益を使って誕生日の個別ケアをする取り組みも始まった。管理者とは日頃からコミュニケーションがとられ、ホーム長との面談の機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の意見を反映させ、気持ちよく働ける様努めている。	管理者、職員の意見を反映させ、気持ちよく働ける様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、法人本部と管理者と面接を行い、皆の意見で決定している。職員それぞれが得意とする事を活かせるように担当決めを心掛けている。	職員採用に関しては、法人本部と管理者と面接を行い、皆の意見で決定している。職員それぞれが得意とする事を活かせるように担当決めを心掛けている。	職員には得意分野を持ってもらい、レクや季節の飾りつけなど意匠をこらしたものに取り組んでいる。チームワークを大事に、ユニット関係なく全体でフォローしあう体制が出来ている。シフトの急な変更などにも全員で対応している。長く勤める職員も多く経験を積んできている。ユニットフリーにすることで柔軟な対応につながり、休憩やシフトも希望などを通して取られていた。	

H27自己・外部評価表 (GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加した職員は、研修発表をし情報共有し、入居者の人権を尊重するように努めている。	研修に参加した職員は、研修発表をし情報共有し、入居者の人権を尊重するように努めている。	事業所単体での研修のほか、外部研修に出た際には伝達によって共有している。昨年は市の事業所連絡会での外部研修に参加し高齢者の人権に関して学んだ。毎年の研修計画にも人権教育、啓蒙活動をいれこんでおり、定期的な学習を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は、勤務時間内に積極的に参加するようにしている。	外部の研修は、勤務時間内に積極的に参加するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の祭りには参加し、他の施設職員との交流の機会を大事にしている。	地域の祭りには参加し、他の施設職員との交流のきかいを大事にしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ず来設していただき、ご本人とご家族から要望を聞いている。グループホームでの生活に、早く慣れていただくようにケアプランにも取り入れている。	必ず入居前に面談を行い、要望等を聞き、安心を促す為、他利用者の方とお話しいたごたりしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で十分に話を聞いている。ご家族の情報を把握し、安心していただける様な関係作りを努めている。	見学時又は入居時に要望等をお聞きし、入居後も密に連絡を取り、信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望があれば、対応する。主治医の勧めで、訪問調剤管理指導を受けている方もいる。	入居前に情報を入手し、情報を把握した上で、改めて御本人・御家族にニーズを見極める為、じっくりと面談を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの生活の知恵や、職員の知らない事を教えていただいたりして、共に過ごし支えあう関係を作っている。	利用者様から、昔ながらの事を教えていただいたり、職員と共に役割を持っていただいたりと、共にやっていくことに力を入れている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を大切に、月に一度『めぐみ便り』で日常生活の様子を伝えている。状況の変化等は、直ぐに伝えている。	受診はご家族に同行して頂いている。状況に応じて、電話でご家族様との会話を楽しんで頂いたり、不穏が強い場合は、面会に来て頂くなどの協力を得ている。常に、ご家族には状況報告を行っている。		

H27自己・外部評価表 (GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時に、昔住んでいた家の近くや、馴染みのある花の名所に出かけている。	ご家族の方の了承を得た利用者様は、地域の方の面会をしていただいたり、ご家族の協力にて行きつけの美容室に行かれる等している。ドライブ時、自宅や馴染みの場所を通る様にしている。	玄関に公衆電話を置いており、入居者は気兼ねなく外部への電話をしている。日頃、少人数でのドライブなどした際に自宅近くを通ったりすることもある。家族に行きつけの美容室に連れて行ってもらったり、一時帰宅、外泊なども行われ、逆に家族が宿泊されることもあった。近隣友人、知人の来訪もあり、それぞれの関係を継続し、疎遠なところも事業所が支援して関わりを継続してもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、入居者様同士の相性に合わせて、テーブルの配置や外出時のメンバーを決めている。	食事をする時のテーブルは、利用者様の状況をその都度考慮し、配置を考えている。安心して過ごせる様に、その都度支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いに行ったり、必要に応じて様子を伺い、相談や支援に努めている。	病院や施設に転移された利用者様には、面会に行っている。ご家族にお会いした時には、近況報告をお伺いしたり、相談に応じる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の様子観察などから、その意向を把握するように努めている。ケアプラン立案時にも、本人から聞き取りを行っている。	定期的に、個々に聞き取り調査を行い、要望等を把握している。聞き取り調査をする事が困難な方には、表情や行動を観察し、ご本人の意向に沿うように努めている。	本人、家族とアセスメントを行い、6ヶ月毎に見直している。担当制により職員が受け持ち、面会や電話のほか、現場の意見も踏まえて普段からのやりとりもアセスに活かしており、ケアマネが協力して、変化のあった際などには随時追記もしている。以前はセンター方式を活用していたが、今回から様式を見直し、アセスもしやすくなった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や、ご家族の話などから把握するように努めている。馴染みの物を持ってきていただいている。	入居前に情報を入力し、入居後もご本人・ご家族の方より、これまでの暮らしについて聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行っている。生活の様子を観察し、現状の把握に努めている。	介護記録や、バイタルチェック記録に必ず目を通し、スタッフ全員が一人ひとりの暮らしの現状を把握する様努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間で意見を出しあい、ご家族に相談し今の状態に合ったケアプランを作成している。	カンファレンスを定期的に行い、ご家族や主治医にはご本人の状況に応じてその都度報告し、ケアプラン立案時には、ご本人に聞き取り調査を行ってケアプランを作成している。	担当制によって職員がプランの素案作成、毎月のモニタリングなどを受け持ち、カンファレンスは3ヶ月に行い、日頃の情報は申し送りでも共有している。カンファレンス時は全職員で入居者のことを話し合い、ケアプランは更新時に共有している。職員もケアマネから教わってプラン作成に取組み、担当制もよく機能している。	

H27自己・外部評価表 (GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、ケアに関する大切な情報は、申し送りノートに記入し職員全員が共有出来るようにしている。ケアプランにも活かしている。	個別に日々の様子を記録し、変化があった事等、口頭やノートで申し送りを行情報の共有を行い実践に繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせて、病院受診の付き添いや薬の受け取りに行っている。	その時々に応じて、受診の送迎を行ったり、買い物に行ったりと、利用者様のニーズに合わせて支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度消防署の立ち合いで、消防訓練を行い指導して頂いている。福祉の専門学校の学生のボランティアの受け入れも行った。	定期的に消防署と連携して、避難訓練を実施している。又、保育園児の慰問を定期的に行ったり、地域の文化祭に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を主治医としている。要望がある場合は病院を紹介している。ご本人・ご家族の状況によっては、往診を勧める事がある。	これまでのかかりつけ医に主治医になっていただいたり、受診が困難な方には、往診が出来る所を主治医に迎えたりして、適切な医療を受けられるように支援している。	元々のかかりつけ医を継続してもらっており、往診対応する医師もいる。定期受診は基本は家族対応だが、事業所からの支援や同行も行っている。家族の不安を払拭するために緊急時などは事業所支援、報告をしており、安心につながっている。時には状況に合わせた病院の紹介提案することもあり、家族ともよく連携がとられる。母体法人の看護師とも連携して健康管理やアドバイスなどもされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきを看護職に報告、相談している。必要な場合は、受診を行っている。	病院と兼務している看護師に電話等で相談したり、定期的にグループホームに看護師が来設し介護記録に目を通し一人ひとりに支援を行っている。又、状況に応じて主治医の看護師に電話で相談したりしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が同行し、病院側と情報交換を行っている。入院中も面会に行き、早期退院が出来るように働きかけている。	入院先のソーシャルワーカーと情報の共有を行い連携を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「急変及び重度化した場合の意向」に記入して頂いている。状況の変化に合わせてご家族と話し合いを行い、めぐみで出来る事を十分に説明し方針を共有している。	入居時に重度化に向けてアンケートを取っている。又、ご本人の状況に応じて、今後の方向性をご家族や主治医との話し合いを設けている。	今までに看取った事例はないが、現状利用するアセスメントの聞き取りで要望を聞き取っており、指針を定め、入居時から意向を把握している。重度化の際には改めてそれぞれのかかりつけ医と連携し、希望されれば系列の老健とも協働している。医療に関する勉強会も行っている。	今後の、状態に応じた受け入れの可否に関して検討や準備が進められることや、ターミナルケアに関する勉強会が開かれることにも期待したい。

H27自己・外部評価表 (GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、必ず勉強会に取り入れている。急変時対応マニュアルを掲示している。定期的な訓練は行っていない。	外部研修やグループホーム内での勉強会を設け実践で対応出来る様にスタッフ全員が日々意識している。又、マニュアルを掲示している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎朝、避難訓練のマニュアルを唱和し、全職員が暗記している。訓練も年5回行い、老健との合同訓練にも参加している。	毎朝、火災時のマニュアルを唱和し、定期的に避難訓練を行っている。防災についても、ホーム内での勉強会を行っている。	運営推進会議との同日開催で訓練には地域代表、家族にも参加してもらった。年に5回は単独で開催し、1回は隣接の老健と合同開催している。毎回担当者を変えて全員が受け持てるようにしており、夜間想定、消防署の立会もされている。非常対応動作も毎日読み合わせてスムーズな緊急対応に備えている。備蓄物、AEDは隣接老健に備えられ、消防署も近いので防災機能は高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや、対応を行っている。プライバシー保護については、毎年勉強会で取り入れている。	その人その人に応じた声掛けを行っており、掃除に入室する際には、必ず了承を得てプライバシーに配慮を行っている。	接遇目標も立てており、意識は高い。年3回振り返りの機会ももち、セルフチェックも行う。年間計画で内部研修も行い、同性介助の要望、対応も柔軟にしている。写真利用や、名札、地域の広報なども含めて入居時に同意をとって了承を頂いている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、一人ひとりの思いを聞き取り、飲み物の選択や入浴時間など、自己決定出来る様に働きかけている。	自己決定出来る声掛けを行って。日々のコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いを受け止めご本人の意思を大切にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを出来るだけ尊重している。ドライブや散歩、作品作りテレビ鑑賞等、出来るだけ希望に沿って支援するようにしている。	一人ひとりの時間の過ごし方を大切に、その人に合わせて食事時間を合わせたり昼寝を設けたりドライブ等にも行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方は、その好みを活かせるように、選べない方は季節やその方に合うような物を考慮して選んでいる。	行きつけの美容室に行かれたり、自分で選ぶことが出来ない方は、スタッフと一緒に洋服を選んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けや、もやしの根切り、餃子の包み等の食事の準備や、テーブル拭き、食器のすすぎをいただいている。1人ひとりの力を活かしている。	季節の旬の物を、献立に取り入れている。又、ご家族の方より季節の物を頂き、つくのはかま取りやつわの皮むき等、昔ながらのお手伝いをいただいている。	食材、メニューの配達があり、事業所で調理している。食事喜ばれており、体重の増加回復にもつながっている。時折メニューも変えて刺し身を提供したり、収穫物や差し入れを使った調理もされており、出来る人は下ごしらえ、血洗いなどを手伝ってもらい、行事食、誕生日食、外食などで食べたいものも食べてもらっている。職員は検食担当と一緒に同じものを食事している。	

H27自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材業者の栄養士が作成し、めぐみの職員が見直しを行いバランスの良い食事になっている。一人ひとりの状態に合わせて、食事量も配慮している。	食材業者の栄養士が基本の献立作成。その後グループホームで献立の見直しを行っている。又、食事量をチェックし、その人に応じた食事形態にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕で口腔ケアを行っている。ご本人の状況に合わせて介助を行い、困難な方には最後に緑茶を飲んで頂き、口腔内の清潔保持に努めている。	朝・夕、口腔ケアの声かけや介助を行っている。定期的に義歯洗浄も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、把握出来ている。ほとんどの方がトイレで排泄を行っている。オムツの種類も一人ひとりの状況に合わせて物を選んで、失敗が少なくなるように努めている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、その人にあったトイレ誘導を行っている。又、把握出来る様にすべて記録を取っている。	実施記録への記入によって、ユニットごとにそれぞれの排泄状況を管理している。その日毎に担当者を決めることで、トイレ誘導などに漏れのないよう、責任をもって行う。自立した方には後から聞き取り、パットの汚染を確認して記録している。バイタルチェックで便秘も確認し、状態に合わせたパット利用など随時気づいた職員が提案している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎年の勉強会に取り入れ理解を深めている。スムーズな排便の為に牛乳を飲んで頂いたりもしているが、便秘にならないように主治医と相談し、下剤の調整を細目に行っている。	排便の確認を行い、毎朝牛乳やヨーグルトを提供している。主治医に相談し、下剤の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。時間の希望のある方は、希望に応じて入浴して頂いている。一人ひとりの状況に合わせて入浴していただいている。	入浴日は、決まっているが、その人の意向に沿った入浴や入浴時間を選んでいただいている。年1回、ゆず風呂等で楽しんで頂いている。	基本的に週2で午前から夕前までに入浴してもらい、順番は希望を聞きながら対応している。拒む人には無理強いをせず、清拭などで少なくとも週1回は入るように支援している。お湯は午前午後で入れ替え、清潔に保ち、個人それぞれの容器を準備して洗髪料なども好みの物を使う方もいる。季節の行事浴で変化もあり、入浴を楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けたり、その日の様子に合わせて休息の声掛けをしている。安心して気持ちよく眠って頂ける様、室温調整にも気を配っている。	一人ひとりに合わせて、休息してもらっている。布団乾燥機を使用したり、隣室にテレビの音が聞こえないように、イヤホンを使用していただき、お互いに気持ちよく過ごせる様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を保管し、確認している。服薬介助は、一人ひとりの状況に合わせて行っている。薬の変更があれば、症状変化に注意し観察を行っている。	個々のカルテに薬の説明書を綴じ、いつでも見られるようにしている。又、薬変更時は、申し送りをしたり、バイタル一覧表に記入し職員が把握出来るようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い等の役割を持っていただいたり、作品作りに取り組んでいただいている。	入居時や日々の関わり時に、生活歴や趣味・嗜好品等を聞き、個々に合わせて得意な事をしていただき楽しみを持っていただいている。		



H27自己・外部評価表 (GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年より、入浴回数を変更してドライブに行く機会を増やした。誕生日には、個別に担当者と外食に行き、お祝いしている。	個々の誕生日には、個別対応にて食事に出かけたり、季節毎にドライブ、花見に出かけている。又、家族の協力を得て、外出もしている。	バザーの収益金を使って誕生日の個別外出などそれぞれの希望で楽しんでいる。季節の花見、バスハイクなど年1回全体で外出し、計画以外でも少人数や単独でドライブに出たり、散歩も行ったっている。外出チェック表を使って偏りのないようにそれぞれに外出機会を持ってもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持判断はご家族にお願いしている。めぐみでお金を遣う事はないが、所持することで、安心されている。公衆電話を使用される方はいる。	一人ひとりの状況に応じて、所持金を持っていただき、自由に公衆電話等を使用出来る様になっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。ご自分で電話をすることが出来ない方は、めぐみの携帯電話を使って、ご家族と話されている。	公衆電話を設置している。ご自分で電話が出来ない方は、グループホームの携帯電話を使用し、他県にいるご家族と話が出来る様に支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下には、季節に合った作品や写真を飾っている。食堂から見えるベランダには四季折々の花や野菜が植えられ、居心地良く過ごせるようにしている。	換気を行い、温度調節に配慮している。ベランダには季節の花や野菜を植え、居間・廊下には、季節の作品や利用者様の写真を掲示している。	南向きのベランダに面し、左右対称にユニットが配置されている。間仕切りも低くお互いのユニットの様子もよく見え、日光もよく差し込み明るい雰囲気にも満たされている。行事の写真や季節の飾り、切手を利用した絵など手の込んだ作品も飾られ賑やかである。入居者はダイニングテーブルやソファなどで寛がれ、廊下も十分な広さで、歩行器や車いすでも行き来がしやすいように配慮されていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下に長椅子を置いている。一人でゆっくりテレビを見たり、ベランダを眺めたり、入居者様同士で、ゆっくり話が出来る様にしている。	気の合う利用者様同志を同席にしたり、座席には配慮している。又、玄関や浴室前に椅子を設置。思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具等を持ってきていただいている。自由に写真やカレンダー等を飾っていただいている。	各居室に温度計を設置し、温度調節に配慮している。使い慣れた家具を持って来られたり、火を使用せず、お参り出来る仏壇を持って来られたかたもいる。虫等に敏感な方には、防虫剤を設置し、快適に過ごして頂くように工夫している。	全室洗面台が備え付けられ、クローゼット、押入れもあり収納スペースも広く確保される。リビングからは廊下を隔てているため静かに休むことも可能で、日当たり風通しもよく、障子窓からは暖かで柔らかな日差しが差し込む。テレビや食器棚、冷蔵庫、観葉植物などを自由に持込み、それぞれの部屋づくりが楽しまれていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりを設置している。平屋建てで、居室やトイレの場所も分かり易いつくりになっている。	お一人おひとり状況に応じて、福祉用具を使ってもらっている。廊下には手すりがあり。床はバリアフリーになっている。		